

平成 17 年度茨城大学社会連携支援経費申請書

茨城大学長 殿

申請者 五浦美術文化研究所  
代表者 小泉 晋弥



下記の本年度の社会連携授業支援経費を申請いたします。

1. プロジェクト名 (40字以内)

観月会 2005 講演会・展覧会・天心邸茶会

2. プロジェクトの連携先と連携内容 (別紙可)

連携先：茨城県天心記念五浦美術館、北茨城市、天心偉蹟顕彰会 (民間団体、会長；北茨城市長)

連携内容：(1000字以内、連携の方法、内容、計画、期待される成果等)

茨城県天心記念五浦美術館、北茨城市、天心偉蹟顕彰会と連携して、かつて天心が開催した「観月会」の名称のもとに、下記の事業を開催する。

(1)文化講演会 (会場；天心記念五浦美術館)

天心の幅広い業績を、様々な角度から顕彰するために、天心記念五浦美術館の協力を得て、専門分野に詳しい講師による講演会を開催する。

(2)美術展覧会 (会場；五浦美術文化研究所、六角堂、天心邸)

茨城にゆかりのある若手・中堅の作家により、六角堂や天心邸を使用して展覧会を開催する。天心は優れた美術指導者であり、五浦でも生活の様々な場所を美術品で飾っていた。現在は、保存上の問題などで、出来ないが、約一ヶ月の開催期間に限り、かつて天心が考えていた生活と美術の融合の有様を再現し、入場者に生きた遺跡として体験してもらおう。

(3)天心邸茶会 (会場；天心邸)

『茶の本』にちなみ、天心偉蹟顕彰会の協力を得て、天心邸で茶会を行なう。登録文化財である天心邸を一般の方が体験する年に一度の機会となる。

天心は日米欧印で活躍した国際人であったが、同時に手紙に「茨城県平民」と記した茨城県民でもあった。これらの事業を通して、天心の業績の偉大さと県民としての身近さを体験し、普段は観光地として見られている五浦の意味を再認識する機会としたい。天心記念五浦美術館の協力により、広報印刷物を全国の美術館・博物館に配付する。

申請分野 1地域の教育力 2地球環境形成、地自体との連携 3産官学連携 ④学術文化 5その他の地域との連携

3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績 (別紙可)

天心偉蹟顕彰会が、五浦美術文化研究所を借りて、会員のために「観月会」として小さな集会を行っていたものを、2002年に、試行的に、地域の多くの人々に開放する催しとしてみた。天心が五浦に移り住んで100年目となった2003年には、天心の幻のオペラ「白狐」の一部を上演し、関係者から高い評価を得た。2004年には、六角堂で展覧会を開催して、全国から多くの来場者を得るなど地域に定着する事業となってきた。本年は、資金的援助を受けてきた財団法人茨城県文化振興協会が解散したため、社会連携支援経費に申請を行なった。

4. プロジェクト参加者（含む申請者）

氏名	学部・学科等	職名	分担内容
小泉 晋弥	教育学部	教授	プロジェクトの統括
佐々木寛司	人文学部	教授	講演会の企画調整
十河 雅典	教育学部	教授	展覧会の企画・指導
鈴木 敦	人文学部	助教授	広報用印刷物の企画